

くすっ子



鴻巣市立屈巢小学校
学校だより
令和3年6月1日
No.5

《花いっぱい 夢いっぱい 笑顔いっぱい 屈巢小》
花をさかせる学校・夢をはぐくむ学校・笑顔あふれる学校

自然界に生きている・生かされていることの実感



校長 諏訪 けん

「麦秋(ばくしゅう)」。屈巢っ子たちには、実感をともなった言葉として、インプットさせたい言葉です。麦が実り、金色に輝くまさに、今の季節を表す言葉です。秋の文字が入っていますが、10月・11月のことではないところが、日本語の面白いところであり、難しいところでもあります。しかしながら、言葉が豊かになると、心も豊かになる気がします。

屈巢地区の所々に残る小麦の実りについて、ご家庭でも話題にさせていただければと思います。触るとチクッとするとげの感触。さらには、製粉し小麦粉となり、うどんやパンなどになることが理解できると、「作って食べたい」となるかもしれません。(ご家庭の苦労を顧みず、書かせていただきました。)

また、今週から昇降口に通じる通路に、梅の実が毎朝落ちるようになりました。児童が手にとり、産毛の感触を実感してくれたらと思います。昇降口に置いてみました。

さらには、職員室前の水槽には、プールで育ったヤゴを飼育しています。(えさは、乾燥糸みみず)成虫となって羽化する日が、待ち遠しい状況です。実は、このヤゴは、先々週に、「コウノトリの里づくり」を進めている鴻巣市役所環境課の方々が、本校のプールで、ヤゴの採集をされた時に、一緒に網ですくい、(興味本位で)飼いはじめたものです。ちなみに「コウノトリの里づくり」の一環で、川里中央公園内にあるつり池わきの休耕地をビオトープ化し、いずれは、コウノトリのえさ場にしようという構想があるそうです。生態系豊かなビオトープにするために、本校で採取したヤゴをビオトープに放すとのことです。また、高坂市の動物公園で飼育しているコウノトリに本校のプールで採取したヤゴをえさとして与え、コウノトリが食べている様子が、確かめられたとのことです。数年後に、川里の地にコウノトリが飛来する日がくることを期待しています。まさに、「夢をはぐくむ」取組を屈巢の子たちに、伝えていきたいです。

そして、26日(水)の皆既月食の天体ショー。雲に阻まれ、「赤銅色の満月」を見ることができず本当に残念でした。次は、2022年5月ということです。子どもたちは、高校生以上になっていますが、そのときは、天気の様様に微笑んでほしいと思っております。

このように、子どもたちが、ふるさと川里の自然に触れ、生の現象から学ぶことを大事にしたいと思います。タブレット等、画面を通して学ぶ時代になったからこそ、動物の一種として自然界に生きている・生かされている実感を子どもと共にもちますが、大切なのだと思います。



いよいよ運動会! 「さいごまで 力を出しきれ 運動会」(今年のスローガン)

今年の運動会は、プログラムにてご案内のとおり、表現(ダンスや組体操)運動と徒競走の2種目+代表リレーと鼓笛演奏となります。ここ2週間、練習を重ねるごとに、子どもたちの中での意気込みが高まっています。先生の指示を聞き、無心にダンスをマスターしていく姿に、コロナ禍ゆえに「当たりまえの光景」のありがたさを感じています。当日は、今年のスローガンを達成することを全員の共通の目標とします。そのためにも、お子様の体調管理(早寝・早起き・朝ごはん)にご留意いただきたく、お願い申し上げます。また、感染症対策のため、縮小・制限をしての実施となりますこと、心苦しい限りではございますが、ご理解・ご協力を賜りますよう、お願いいたします。

